資料１－３

国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業

（報告）

団体名　（社）国際女性教育振興会

[開催趣旨・目的]

男女共同参画社会推進を目指す「男女共同参画学習アドバイザー海外派遣事業」は４０年目を迎える。長年にわたる諸外国における調査・視察研修事業参加者の中から、国際的な視野が契機になり様々な働き方をする女性が生まれている。女性の特技・特性を活用してキャリアアップを図った人、男性社会に列し奮闘する人々がある。

本年度の海外研修では、スウエーデン王国、ロシア連邦の女性の経済活動の実態を視察研修する。EU 圏の揺れる経済問題が女性の生活に及ぼす最新情報などは貴重な参考になろう。今後の日本の発展に必要欠くべからざる多文化共生社会のあり方や自立的な働き方などを、地域の特性を考慮しつつ論じあう場を展開したい。

事業は、神奈川県と長野県支部で開催し、女性の経済活動への参画に関する理解を深めるとともに、地域の活性化を図りたい。

[シンポジウムの名称]

I 男女共同参画推進長野県セミナー　**～見つめてみよう！　私の働き方～**

[日時]　平成 22 年 12 月 11 日（土）午後１時～４時

[場所]　**長野県男女共同参画センター　“あいとぴあ”　ホール**

長野県岡谷市長地権現町 4―11－51

[参加者数]　**１５０名**　（定員 600 名）

[プログラム]　（別添チラシ参照）

[参加者からの主な意見]

・日本の長野県出身の若い女性から、実体験したフィンランドの国の事情と女性の生き方を聞き、女性の社会における働き方について日本の現状との違いに衝撃を受けた。

・女性だから、○歳だからと自分を日本社会の枠にはめず、物の見方、考え方を広く持つと、女性の社会的・経済的活躍が進んでいくのだと考えさせられた。

・女性起業家の意気込みと使命あふれる話に感銘を受けた。

・女性が働くことは、自分自身の生き方を充実させると共に、納税者として社会貢献することでもあると再認識した。

・具体的な話で、興味深く自分自身のこととして考えられた。自分が自主的に行動しなければ、と思った。

・とても良いセミナーでした。

・日本の年金制度素晴らしさ、女性の納税意識の低さに気付かされた。

・女性の“かせぎ”にならないボランテイアの考え方について知りたい。
・聴覚障害者の声「手話通訳付きということで参加したが、手話は３分の１位しか理解出来なかった。文字による通訳があれば良かったのに」
・子育てしながらフルタイムで働いているが、仕事と家庭の両立はとても大変。女性が納税者として充分に働くには、子育て、介護を母、妻、娘以外の人も担う仕組みが必要。
納税できる仕事と子育ての両立が可能な社会になればと思う。
・世間、地域の中では、男女共同参画の考え方には不安、おどしを感じる。どう変えるか。
・男性参加者にも関心が持てる内容にしてほしい。

「シンポジウム等を通して得た成果」

・女性の地位が確率されているフィンランドの実態を知らせ、日本の女性に働くことへの意識の変革を求めた。多くの反応があった。
・地域で働く女性起業家の実態報告は、働くことへの意識の変革に役立つた。働くことは生きること、地域社会に貢献することである。
・フィンランド語教育を受け、フィンランド企業で働き、日本の新しい生き方を提言する地元出身の若い女性講師の生き方を紹介し応援した。
・日本社会の年金、保険、教育、税制、民法などのシステムを知ることが自分の生き方の方向をきめるという話しの糸口に至ったこと。―これからの継続学習課題である。
・本会の海外視察研修参加者　走川朋子さんが、研修後人材開発校を起業した実例を発表出来たことは真にうれしいことである。

[今後の課題]

・働くことで社会制度理解が生まれる。制度の国際比較から、教育を受けた日本女性の働きが日本経済の活性化や少子高齢社会に必要不可欠であると広めていきたい。
・本会のフィンランド研修の実績から、起業家教育、教育制度、教育者向上支援制度の実態などと、入門編でないフィンランド講演の持って行き方を準備できたのではないかとの反省がある。女性教育者の地位は高いし尊敬されている。
・女性は自分の働き方を、もっと主体的に捉えるように意識変革が迫られている。

女性企業主が、パート女性の扶養控除内に制限した働き方の無責任さを怒った。扶養控除の問題点と自分が社会人としてとるべきリスクのことなど研修課題である。

・女性の人生設計も若い時から主体的に捉えていく長い時間がいると知らせたい。

今回のセミナー参加者は、残念ながら 50 代以上の人が多かったが、これからの時代、60 歳定年あとは余生などという考えは通用しないこと。その年代なりの社会貢献の仕方があることを広めていきたい。

・会場設定をもっと参加者を得られる場所にしたい。

・シンポジウム開催時期が、12 月では参加者増は困難である。なるべく早い時期にしたい。

[シンポジウム等の名称]

II　（社）国際女性教育振興会神奈川県セミナー

講演とシンポジウム　**多文化共生社会と女性の経済活動**

[日時]　平成 23 年 1 月 29 日（土）午後 1 時～4 時

[場所]　**男女共同参画センター横浜南　大研修室**

横浜市南区南太田 1―7―20

[参加者数]　**９０名**　（定員 100 名）

[プログラム]　（別添チラシ参照）

[参加者からの主な意見]

・女性の経済活動参加の視点がとても重要だと思った。

・基調講演は、理論的でわかりやすかった。

・「生きにくい国ニッポン」の課題を理解した。

・「みんな違って、みんないい」ことが多文化共生社会の基本であると理解できた。

・再度勉強しなおしたいと刺激をうけた良い会だった。

・女性の持つ力が社会を変えるのだと確信した。

・男女共同参画、多文化共生の問題と経済のつながりを知った。

・楽しく面白いセミナーだった。

・３人のパネリストが個性豊かで素晴らしかった。

・パネリストのお話は楽しく、その中にジェンダーをかんがえるポイントがあった。

・女性の感性を味方にして、料理教室を主宰運営する、農業後継者として自然に学ぶ土壌改良技術を成功させた等の経済活動を成功させているパネリストの生き方を学んだ。

・国女振の海外研修で得た知見を、実際活動に見事に活かしている。

・大沢先生とパネリストとのバランスが良く、あたたかい雰囲気につつまれて楽しかった。

・人間の多様性に対する概念を通じて、様々なニーズに対応する大切さを痛感した。

・多文化共生社会を身近な問題として考える機会を得た。

・時間が短くて残念であった。

[シンポジウム等を通して得た成果]

・多文化共生社会の認識が得られたこと。

・女性の経済活動が日本経済、日本社会の活性化のキーであると共通認識出来たこと。

・女性の視点、女性の感性を生かした社会活動の報告は、温かい雰囲気で楽しかった。
とかく堅苦しくなりがちなテーマを楽しく学び、参加者を前向きな姿勢にしたこと。

・女性の経済活動が、ジェンダーを逆手にとって成功した事例には、得られるもの多し。

・多様性を容認できる社会へ開かれていく時代の一員になろうと呼びかけた。

・多文化共生社会、女性の経済活動などの大きなテーマを網羅した会を成功裡におさめることが出来た。

[今後の課題]

・大きなテーマを、継続的に追求して報告しあうことが必要と強くかんじた。

・同じような視点を共有できる他の市民グループと、ネットワークを組んで協力していく姿勢が必要と思った。

以上